

## 師・友・書籍

桑木彥雄

山川先生の胸像、田中館先生の籐椅子に倚よられた写真、長岡先生の立姿の写真、プランク教授のピアノを弾いている写真、アインシュタイン教授来朝の折の写真、是等が私の小さい書齋を飾っている。私は明治三十二年東大物理科の卒業、以上の三先生が当時同大学同教室の教授で在られた。又私は明治四十年ドイツに留学の折には、主としてベルリンに在ってプランク教授を聴講した。アインシュタイン教授は其頃瑞西スイスベルン特許局の一技師であり、一日余は氏を其の特許局に訪れた忘れ難い記憶がある。卒業後、私は長岡先生を指導教授として仰いで、力学を専攻した。先生からマッハの力学書やヘルツの力学を学んで深き感銘を得たのである。卒業の明治三十二年は西暦で一八九九年、この前後数年間、十九世紀から二十世紀への変り目に、理論物理学はニュートン力学中心から電磁論中心に移り、電磁論は電子論中心となり、ローレンツが物理学界の王座を占めるに至ったとも云い得る時代であった。又二十世紀初頭が哲学復興の時代とも云われるのは、新カント派やベルグソンが栄えると共に、科学者の中に、マッハ、ポアンカレ、ラッセル、ピアスン、ヘルツ等の認識論が大なる反響を呼んだことに起因する。丁度私がベルリン留学中、プランク教授はローレンツに招かれて、ライデンで有名な「物理学的世界像の統一」の講演を行った。其中に、マッハのポジティブイズ

ムを攻撃した文句がある。其の後、私は維納ウイナにマッハを訪うたことがあったが、又ベルンでアインシュタインに面会の折、ア「インシュタイン」氏は、プランクの此の講演について、マッハの相對論に大部分賛成だが、プランクの言葉の方が物理学者に満足を与えると語られた。此意味に於てプランクもアインシュタインも共にリヤリストである。然しプランクは元來熱力学基礎理論の研究者として知られ、原子論には寧ろ遠い立場に在つたが、一九〇〇年に俄にわかに量子概念を導入し学界を驚かした。マッハの認識論は云うまでもなく原子論を排撃する。同じ維納ウイナの大学に在つてボルツマンとマッハとの此点に於ける対立は一の奇觀であつた。プランクはライデン講演で、形而上学的實在論の立場に在つてマッハの所論を駁し、マッハの相對的（ニユートン力学に反し時間空間の絶対性を否認する）は青年学生を過まるとさえ述べたのである。然しながら昨年暮れ頃のナツアウイッセンシャフテン誌を見れば、アロイス・ミュラーがプランクの近頃の哲學的一講演を批評したのに、プランクが答えて、自分は若き頃、マッハの影響から免かれ得ず、當時、熱力学理論の研究に於て、エネルギーイク（オストワルド、ヘルム等の）に寧ろ同情し、ボルツマンの原子論に同化することができなかったが、遂に不可逆現象のH定理に於てボルツマン説の不可避を認めたと述べているのは誰しも興味を感ずる言葉であろう。プランクの熱力学と熱輻射論との相違、マッハとの論戰の意義は、以上に依りて明瞭となるのである。マッハの歴史的、哲學的研究にもメイエルソン並ならびに現在のプランク等の如きに依る他の立場も亦在り得るが、マッハの所説にも一の開拓者の獨創的な魅力の存することは看過することはできないであろう。私に愛読書を数えよとならば学生時代から親んだ彼れの力学史を先ず挙ぐるに躊躇するものでない。学生時代に其の三版を求めたが、後に其の初版を入手し、又最後の第九版を愛蔵している。其他、「認識と誤謬」「熱学史」「光学史」等、又稀觀きせうの抜刷論文數種、彼れの全集が出版されていないだけに何れも貴重品と

して私の秘蔵図書である。夫れだけに愛惜措く能わず、茲に附記することを容るされたいのはマツハの抜刷  
論文中私の最も秘蔵していた彼れの一八六六年、即ち彼れの初期に属する一論文 *Vortrag über Psychophysik*  
と題する二三十頁許りの小冊子と彼れのアナリーゼ・デア・エンフィンツングの書とを一昨年九月新宿駅  
で、夫等と二三の新刊雑誌とを容れた手提カバンの儘、紛失したことである。後者は紛失品探索を依頼した  
古本屋から彼是二冊届けて来た。然し前者についてはまだ何の手がかりもないのである。

(昭和十六年、科学ペン)

- 桑木或雄著『科学史考』（河出書房、昭和一九年）所収。
- 読みやすさのために、旧漢字は新漢字に、旧かなは新かなに変更し、適宜振り仮名をつけた。ただし、一部の漢字は旧漢字のままにした。
- PDF化にはL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X<sub>2 $\epsilon$</sub> でタイプセッティングを行い、dvi<sub>ps</sub>dfmxを使用した。

科学の古典文献の電子図書館「科学図書館」

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/munehiro/sciencelib.html>

「科学図書館」に新しく収録した文献の案内、その他「科学図書館」に関する意見などは、  
「科学図書館掲示板」

<http://6325.teacup.com/munehiroumeda/bbs>

を御覧いただくか、書き込みください。